

2020年度 JBAルールテスト用問題集（150問）

2020年4月21日更新

問題番号	問題	解答	分類	推奨 難易度 D～A	備考	
【Q1】 第1章 ゲーム 第2章 プレーイングコート、 用具、器具	1	チームが攻撃するバスケットを「自チームのバスケット」、防御するバスケットを「相手チームのバスケット」という。	×	第1条 定義	D	ルールブック 1-1
	2	バックコートとは、自チームのバスケットの後ろのエンドライン、サイドライン、センターラインで区切られたコートの部分をいい、自チームのバスケットとそのバックボードの内側の部分を含む。	○	第2条 プレーイングコート	D	ルールブック 2-2
	3	プレーイングコートに描かれた全てのラインは幅5センチとする。	○	第2条 プレーイングコート	D	ルールブック 2-4
	4	チームベンチエリアにはヘッドコーチ、アシスタントコーチ、交代要員、5個のファウルを宣せられたチームメンバー、チーム関係者のために16席が用意されてなくてはならず、この規定は国内大会でも大会主催者の考えにより変更することはできない。	×	第2条 プレーイングコート	D	ルールブック 2-4-5
	5	バスケットボールのゲームを行うときには、2種類以上の明瞭に異なる音色の、大きな音の出るブザーを用意しなければならない。	○	第3条 用具・器具	D	ルールブック 3
【Q2-Q3】 第3章 チーム 第4章 プレーの規定	6	プレーのインターバル中はプレーする資格があるチームメンバーは全てプレーヤーであるとみなされる。	○	第4条 チーム	D	ルールブック 4-1-4
	7	プレーヤーに怪我が発生したときに、チームの誰かがチームベンチエリアから出て様子を見にくるだけであれば、手当てを受けたことにはならない。	×	第5条 プレーヤー：怪我	C	ルールブック 5-5
	8	怪我をしたプレーヤーが、どちらかのチームに認められたタイムアウト中に回復した場合、タイムアウト前に怪我をしたプレーヤーに対する交代の合図をスコアラーが行っていたとしても、そのプレーヤーはプレーを続けることができる。	×	第5条 プレーヤー：怪我	C	ルールブック 5-7
	9	キャプテンはゲームクロックが動いている時でも、審判とコミュニケーションを取ることができるが、そこには礼儀正しさを持っていることが必要である。	×	第6条 キャプテン：任務と権限	C	ルールブック 6-1
	10	チームが、ゲームができるプレーヤーをゲーム開始予定時刻を10分過ぎた時点で5人揃えられた場合、開始予定時刻を過ぎてもプレーヤーが揃わなかったことに合理的な理由があればテクニカルファウルを与えてゲームを開始する。	×	第9条 ゲーム、クォーター、オーバータイムの開始と終了	C	インプリ 9-2
	11	ジャンプボールで、ジャンパーはジャンパー以外のプレーヤーがボールに触れるかボールがフロアに触れるまではボールをキャッチしてはならないし、2回までしかタップすることができない。	○	第12条 ジャンプボール・オルタネイティングポゼッション	C	ルールブック 12-2-6
	12	チームコントロールは、そのチームのプレーヤーがライブのボールを持つかドリブルしたとき、あるいはライブのボールを与えられたときに始まる。	○	第14条 ボールのコントロール	C	ルールブック 14-1-1
	13	ショットの動作はボールがシューターの手から離れるか、シューターが空中にいる場合は片足がフロアに着地したときに終わる。	×	第15条 ショットの動作中のプレーヤー	D	ルールブック 15-1-2
	14	タイムアウトは審判が笛を吹いてタイムアウトのシグナルを示したときに始まり、60秒経過後にスコアラーがブザーを鳴らしたときに終わる。	×	第18条 タイムアウト	B	ルールブック 18-3-3
	15	ゲーム中コート上でプレーできるプレーヤーが2人になったチームは、ゲームの途中終了により負けになる。	×	第21条 ゲームの途中終了	C	ルールブック 21-1
	16	第1クォーター開始時のジャンプボールで、ジャンパーではないA3が、ボールがジャンパーによってタップされる前に、サークルのラインに触れないように外側を通って、元いたポジションから移動して、タップされたボールをキャッチした。審判はA3がボールがジャンパーによってタップされる前にポジションを移動したのでバイオレーションを宣した。	×	第12条 ジャンプボール、オルタネイティングポゼッション	B	ルールブック 12-2-8
	17	A2がショットを放ち、ボールがリングに当たりバウンドになった。そのボールをコントロールしようとしたA3はこのままだとB3にボールをコントロールされてしまうと判断し、A3は自身の右手のこぶしでボールをたたいた。審判はA3にバイオレーションを宣した。	○	第13条 ボールの扱い方	D	ルールブック 13-2
	18	チームBにアウトオブバウンズのバイオレーションがあり、チームAにスローインのボールが与えられた。審判からスローインのボールを受け取ったA1は、ボールを受け取ってから2秒後にボールを床に置き、そのあとA2がそのボールを取りすぐにコート内のA3に向かってパスをした。審判はA1にスローインのボールを渡してからA2がボールを手放すまでに4秒しかかかっていなかったため、スローインは正しく行われたと判断してプレーを続行させた。	×	第17条 スローイン	B	インプリ 17-8

19	第2クォーターでB1の最後のフリースローが成功したあと、A1がエンドラインでスローインのボールを持った。ボールが境界線を越えてスローインされる前にコート内のB2が両手を伸ばして境界線を越えてアウトオブバウンズ側に手を出した。審判はB2にバイオレーションを宣し、A1に引き続きエンドラインからのスローインが与えた。そのあとA1は、エンドラインのアウトオブバウンズにいるA3にパスをして、A3はコート内にいるA4に向かってパスをした。審判はA1にスローインのボールを渡してからA3がボールを手放すまでに4秒しかかかっていなかったため、スローインは正しく行われたと判断してプレーを続行させた。	○	第17条 スローイン	A	インプリ 17-37、38
20	A1が両手でボールを掴んで止まっているときに、B1がそのボールをスティールしようとして両手でボールをしつかりと掴んだ。A1もB1もお互いにボールを両手で掴んでいるときに、B1が右足を動かし、その足がアウトオブバウンズに触れてしまった。審判はB1にアウトオブバウンズのバイオレーションを宣した。	×	第23条 プレーヤーのアウトオブバウンズ、ボールのアウトオブバウンズ	C	ルールブック 23-2-3
21	A1はドリブルを終え、ボールを両手で掴んで止り、そこからショットを放った。しかしボールはリングにもバックボードにも当たらず、さらにフロアにも、どのプレーヤーにも触れることなく直接A1がボールを再びコントロールした。そのあと、A1は新たにドリブルを始めた。審判は、A1にダブルドリブルのバイオレーションを宣した。	×	第24条 ドリブル	B	ルール 24-2
22	A1はドリブルを終え、ボールを両手で掴んで止まったが、意図的にボールをB1の脚に向かって投げ、ボールをB1の脚に当てた。そのあと、A1はボールを再びコントロールして新たにドリブルを始めた。審判は、相手プレーヤーがボールに触れたので、A1は新たなドリブルができると判断してプレーを続行させた。	×	第24条 ドリブル	A	インプリ 24-7
23	A1はドリブルを終え、ボールを両手で掴んで止まったが、バランスを崩してしまいボールを持ったままフロアに倒れてしまった。審判は、A1がコートに倒れただけなのでトラベリングのバイオレーションとは判断せずプレーを続行させた。	○	第25条 トラベリング	C	インプリ 25-2
24	A1はどちらもコントロールしていないボールにダイブして、フロアに横たわった状態でボールをコントロールした。そのあと、A1はドリブルをしながら立ち上がった。審判は、トラベリングのバイオレーションとは判断せずプレーを続行させた。	○	第25条 トラベリング	C	ルール 25-2-2
25	A1はドリブルをしながらゴールに向かってペネトレイトしてる。右足が床に触れている状態でボールをギャザー(0歩目)。そしてその右足で踏み切って再び右足をフロアにつける(1歩目)。続いて左足を床につけた(2歩目)。そして一連の動作で左足で踏み切ってショットをした。審判は、0歩目を適用してこのステップを0-1-2と数えてトラベリングのバイオレーションとは判断せずにプレーを続行させた。	×	第25条 トラベリング	B	ルール 25-2-1
26	A1がバスケットに向かってペネトレイトをしながらボールを両手で持ち、ツーポイントのショットの動作に入った。そのひと続きの動作の中でB1にファウルをされ、そのあとトラベリングのバイオレーションをしたが、ボールはバスケットに入った。審判は得点を認め、A1に1本のフリースロー与えてゲームを再開した。	×	第25条 トラベリング	B	インプリ 25-5、6
27	A2が、チームAのバックコートでボールをコントロールしているときに、チームAのフロントコートの制限区域内でA3が3秒間とどまっていた。審判は、A3に対して3秒ルールのバイオレーションを宣した。	×	第26条 3秒ルール	C	ルール 26-1-1
28	A2が、チームAのフロントコートのサイドラインからスローインを行おうとしているときに、チームAのフロントコートの制限区域内でA3が3秒間とどまっていた。審判は、A3に対して3秒ルールのバイオレーションを宣した。	×	第26条 3秒ルール	C	ルール 26-1-1
29	A2が、チームAのフロントコートでボールをコントロールしているときに、チームAのフロントコートの制限区域内でA3が3秒間とどまっていた。A3が3秒ルールのバイオレーションになりそうときに、A2がショット動作に入りボールが手から離れようとしていた。審判は、3秒ルールのバイオレーションとは判断せずプレーを続行させた。	○	第26条 3秒ルール	C	ルール 26-1-2
30	コート上でドリブルをしながらその場で止まっているA2が、5秒間パスもショットもせずに、B3に1m以内の距離で正当な位置で積極的にガードされていた。審判は、A2に対して5秒ルールのバイオレーションを宣した。	×	第27条 近接してガードされたプレーヤー	C	ルール 27-2
31	A2がバックコートでライブのボールをコントロールしているときに、フロントコートにいるA4に向かってパスを行なった。そのフロントコートへのパスの途中で、ボールが空中にあったときに、センターラインをまたいだ状態で止まっているB2によって正当にはじき出され、ボールはチームAのバックコートでアウトオブバウンズとなった。その時点でA2がバックコート内でライブのボールをコントロールしてから5秒が経過していた。審判はバックコートからスローインをするA2にボールを与えるときに、あと3秒でボールをフロントコートに進めるように伝えた。	×	第28条 8秒ルール	A	ルールブック 28-1-2
32	センターラインをまたいで(右足がフロントコート、左足がバックコート)立っているA2が、バックコートにいるA1からパスを受けた。そのあと、A2は再びバックコートにいるA1にパスをした。審判は、チームAはまだボールをフロントコートに運んでいないと判断してプレーを続行させた。	○	第28条 8秒ルール	C	インプリ 28-4
33	A2が、バックコートからドリブルをして、センターラインをまたいで(右足がフロントコート、左足がバックコート)状態で止まった。そのあと、センターラインをまたいで(左足がフロントコート、右足がバックコート)立っているA1にパスをした。A1はボールをキャッチしたあとに、右足をバックコートに戻し、バックコートでドリブルをスタートさせた。審判は、チームAはまだボールをフロントコートに運んでいないと判断してプレーを続行させた。	○	第28条 8秒ルール	C	インプリ 28-6
34	第4クォーター残り0:25、得点がA 72 - B 72で、チームAがボールをコントロールしていた。A1がバックコートで4秒間ドリブルをしたとき、審判がゲームクロックが動いていないことに気が付き、ゲームを止めた。審判は、どちらのチームにも関係のない理由でゲームを止めたことから、チームAの8秒のカウントをリセットして、バックコートのゲームを止めたところから最も近いアウトオブバウンズからのスローインでゲームを再開させた。	×	第28条 8秒ルール	B	インプリ 28-11、12
35	A2がバックコートでライブのボールをコントロールしているときに、フロントコートにいるA4に向かってパスを行なった。そのフロントコートへのパスの途中で、ボールが空中にあったときに8秒が経過し、チームAに8秒のバイオレーションが宣せられた。審判はバックボードの真後ろを除いた8秒のバイオレーションが起こった場所に最も近い位置からチームBにスローインを与えゲーム再開させた。	×	第28条 8秒ルール	C	インプリ 28-13、14

【Q4-Q9】

第5章
バイオレーション

36	ショットクロックが終了する間にA1がショットを放った。ボールはB1によって正当にブロックされたあとショットクロックのブザーが鳴った。ブザーのあとB1がA1にファウルをした。これはA1のツーポイントを狙ったジャンプショット中に、B1がショットを正当にブロックしたあと勢い余って、A1がまだ空中にいる間にB1が起こした、ボールにプレーしようとする正当に努力していたとしても、過度に激しい触れ合い不当な体の触れ合いに対してのファウルだった。審判はこのファウルはアンスポーツマンライクファウル(C2)であったが、ショットクロックのブザーのあとに起きたらファウルであったため、ファウルは取り消しチームAの24秒バイオレーションとしてゲームを再開させた。	×	第29条 24秒ルール	A	インプリ 29/50-4
37	ショットクロック6秒でA1がショットを放ちボールが空中にあるとき、A2とB2にダブルファウルが宣せられ、それぞれの罰則は等しかった。ボールはリングに当たらなかった。アローはチームAを示している。チームAのショットクロックは継続され、6秒になる。	○	第29条 24秒ルール	A	インプリ 29/50-16
38	フロントコートにいるA1がA2にアリウープパスをした。ボールはA2に渡らずリングに触れ、そのあと、バックコートに返りA3がバックコートでボールをコントロールした。審判はショットクロックが14秒から再開されていることを確認してゲームを継続させた。	×	第29条 24秒ルール	A	インプリ 29/50-44
39	ショットクロック6秒でA1がショットを放った。ボールがリングに触れ、リバウンドのボールをA2がバックコートでコントロールした。そのあと、チームAのバックコートでB1がA2にファウルをした。これはチームBのそのクォーター3個目のチームファウルだった。ゲームはチームAのバックコートからのスローインによって再開となり、ショットクロックは14秒になる。	×	第29条 24秒ルール	C	インプリ 29/50-46
40	ゲームクロック残り23秒で、チームAが新たにボールをコントロールした。そのあと、ゲームクロック残り19秒で、A1がショットを放ち、ボールがリングに触れA2がリバウンドを取った。はじめにチームAがボールを新たにコントロールした時点では、ショットクロックはスタートされていないことから、A2がリバウンドを取ったあとショットクロックは動かさない。	×	第29条 24秒ルール	C	インプリ 29/50-56
41	バックコートにいるA1が速攻を試みて、フロントコートにいるA2に向けてパスをした。B1はチームBのフロントコートからジャンプをして空中にいる間にボールをキャッチし、センターラインをまたいで着地したあと、チームBのバックコートに向けてドリブルをした。審判は、B1がボールを不当にバックコートに戻したと判断してバイオレーションを宣した。	×	第30条 ボールをバックコートに戻すこと	B	インプリ 30-2
42	第2クォーターの開始のために、スローインを行うA1がセンターラインの延長線上からA2にボールをパスした。A2はチームAのフロントコートからジャンプをして空中でボールをキャッチし、センターラインをまたいで着地したあと、チームAのバックコートに向けてドリブルをした。審判は、A2がボールを不当にバックコートに戻したと判断してバイオレーションを宣した。	○	第30条 ボールをバックコートに戻すこと	B	インプリ 30-5
43	A1がセンターライン近くのフロントコートに両足を完全につけて立っており、同じくセンターライン近くのフロントコートに完全に両足を付けて立っているA2に、バウンズパスをした。パスされたボールはバックコートに触れた後でA2に届いた。しかしA1もA2もバックコートに触れていないので審判は、ボールを不当にバックコートに戻していないと判断してプレーを続行させた。	×	第30条 ボールをバックコートに戻すこと	B	インプリ 30-8
44	バックコートにいるA1が、フロントコートにいるA2にボールをパスした。A2はボールに触れたがボールをコントロールすることができず、ボールはまだバックコートにいるA1に戻った。審判は、チームAがボールを不当にバックコートに戻したと判断してバイオレーションを宣した。	×	第30条 ボールをバックコートに戻すこと	A	インプリ 30-14
45	A1がショットを放ち、ボールがリングに当たり跳ね返った。リバウンドのボールを取ろうとしたA3は左手でリングをつかんで、右手でA4に向けてボールをタップした。審判は、A3がバスケット（リング）をつかんでボールにプレーしたと判断してA3にテクニカルファウルを宣した。	×	第31条 ゴールテンディング、インタフェアレンス	B	ルール 31-2-4
46	A1の最後のフリースローでボールはリングに当たり跳ね返った。B1がボールをはじき出そうとしたがボールはバスケットに入った。ボールは正当に触れられており、フリースローのボールではなくなるため、コート上でプレーしているチームAのキャプテンに2点が与えられる。	○	第31条 ゴールテンディング、インタフェアレンス	B	インプリ 31-6
47	A1がツーポイントショットを放ち、ボールはリングに当たり跳ね返り、まだバスケットに入る可能性があるときにゲームクロックのブザーが鳴った。そのボールにB2が触れた。審判は、インタフェアレンスのバイオレーションを宣し2点をA1に与えた。	○	第31条 ゴールテンディング、インタフェアレンス	B	インプリ 31-10
48	A1がショットを放ち、そのボールが上昇しているときにB2がボールに触れた。その後バスケットに向かって下降しているボールにB3が触れた。B2がボールに触れた時点でショットのボールではなくなったので、そのあとにB3がボールに触れることはリーガルである。	×	第31条 ゴールテンディング、インタフェアレンス	B	インプリ 31-11,12
49	プレーヤーがコート上で普通に立ったとき、そのプレーヤーが占めている位置とその真上の空間をシリンダー（筒）という。その範囲は、正面は手のひらの位置まで、背面はかかとの位置まで、側面は腕と脚の外側の位置までである。手や腕を前に伸ばしてもいいが、足の位置を超えてはならない。手を肘の位置で曲げてもいいが、前腕と手は上げなくてはならない。両足の間隔はプレーヤーの身長により決められる。	×	第33条 コンタクト（体の触れ合い）：基本概念	D	ルールブック 33-1
50	ディフェンスのプレーヤーは、相手チームのプレーヤーに正対し、両足をフロアにつけたとき、リーガルガーディングポジションを占めたとみなされるので、その後ジャンプした場合は、シリンダーの外に外れていなくてもリーガルガーディングポジションとはみなされない。	×	第33条 コンタクト（体の触れ合い）：基本概念	D	ルールブック 33-3
51	ディフェンスのプレーヤーは、ボールをコントロールしていないプレーヤーをガードするときは相手の速さと距離を十分に考慮して位置を占めなければならない。動いている相手チームのプレーヤーが止まったり方向を変えたりして触れ合いを避けることができないほど、急にまた近くに位置を占めてはならない。	○	第33条 コンタクト（体の触れ合い）：基本概念	D	ルールブック 33-5
52	コート上でジャンプをしたプレーヤーには、元の位置と違うところでも、ジャンプをした時点でジャンプをした位置と着地する位置の間に相手チームのプレーヤーが位置を占めていなかった場所に下りる権利がある。空中にいるプレーヤーの足元に入って触れ合いを起こすことは、通常はアンスポーツマンライクファウルであり、場合によってはディスクォリファイングファウルになる。	○	第33条 コンタクト（体の触れ合い）：基本概念	D	ルールブック 33-6
53	A3がジャンプショットを放ち、元の位置と違うところに下りた勢いで、すでに近くにリーガルガーディングポジションを占めていたB2のプレーヤーと触れ合いを起こした。審判はシューターに触れ合いの責任があると判断してA3にファウルを宣した。	○	第33条 コンタクト（体の触れ合い）：基本概念	C	ルールブック 33-6

54	正当なスクリーンをかけられた場合、スクリーンをかけたプレーヤーとのいかなる触れ合いについても、スクリーンをかけられたプレーヤーに触れ合いの責任がある。	○	第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念	C	ルールブック 33-7
55	A1がエンドライン沿いをドリブルし、バックボードの裏側のエリアからジャンプをしてセミサークルエリアに触れてリーガルガーディングポジションを占めているB1にぶつかった。審判はノーチャージセミサークルルールを適用し、チャージングをコールしなかった。	×	第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念	C	インプリ 33-3
56	A3が放ったショットがリングに触れリバウンドになった。A1がジャンプをしてボールをキャッチしたあと、セミサークルエリアに触れてリーガルガーディングポジションを占めているB1にぶつかった。審判はノーチャージセミサークルルールは適用せずに、A1にチャージングのファウルを宣した。	○	第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念	C	インプリ 33-4
57	A1がバスケットに向かってドライブし、ショットの動作を起こした。ショットをするのをやめてA1の真後ろにいるA2にボールをパスした。A1はノーチャージセミサークルエリアに触れているB1にぶつかった。同時にA2は、ショットをするために直接バスケットに向かってドライブをした。審判はノーチャージセミサークルルールを適用し、チャージングをコールしなかった。	×	第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念	C	インプリ 33-5
58	A1がバスケットに向かってドライブしショットの動作を起こした。空中にいる間にショットをするのをやめて、コーナーに立っているA2にボールをパスした。A1はノーチャージセミサークルエリアに触れているB1にぶつかった。審判はノーチャージセミサークルルールを適用し、チャージングをコールしなかった。	○	第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念	C	インプリ 33-6
59	チームAは3個、チームBは2個のチームファウルであるとき、A2がボールをコントロールしているときにA4に向かってパスを行なった。そのパスの途中で、ボールが空中にあったときに、A4とB5がほとんど同時に互いにパーソナルファウルをした。審判は両プレーヤーにパーソナルファウルを記録、ダブルファウルとしてどちらのチームにもフリースローを与えず、ジャンプボールシチュエーションでゲームを再開した。	×	第35条 ダブルファウル	C	ルールブック 35-2
60	チームAは3個、チームBは3個のチームファウルであるとき、A2がツーポイントを狙ってショットを放った。A2のショットのボールが空中にあったときに、A4とB5がほとんど同時に互いにパーソナルファウルをした。その後A2のショットは成功した。審判は両プレーヤーにパーソナルファウルを記録し、A2の得点を認めてジャンプボールシチュエーションでゲームを再開した。	×	第35条 ダブルファウル	C	ルールブック 35-2
61	テクニカルファウルを2個あるいはアンスポーツマンライクファウルを2個記録されたプレーヤーは失格・退場になる。テクニカルファウルとアンスポーツマンライクファウルを1個ずつ記録されたプレーヤーも同様である。	○	第36条 テクニカルファウル	C	ルールブック 36-2-3
62	ゲーム中、コートにチームAのプレーヤーが6人以上出ていることに審判が気づいた。チームBがボールをコントロールしていたのでチームBに不利にならないタイミングを待ってゲームを止め、不当に出場していた6人目のプレーヤーをベンチに戻した。審判はチームAのヘッドコーチが、交代が正しく行われ交代されたプレーヤーが速やかにコートから退いたかを確認する責任を怠ったと判断して、チームAのヘッドコーチにテクニカルファウルを与え「B1」と記録した。	○	第36条 テクニカルファウル	C	インプリ 36-5、36-6
63	第3クォーター3:30に審判がA1に対してパーソナルファウルを宣した。これはA1の5個目のファウルであり、失格になったことを宣せられた。そのあと交代が正しく行われ、A1はコートから退いてチームベンチに戻った。しかし、4Q 9:40にA1は交代してゲームに戻ったが、審判がゲーム再開のためボールがライブになる前にA1の不当な出場に気がついた。A1は速やかにベンチに戻され、チームAのコーチにテクニカルファウルが宣せられる。スコアシートには「B1」と記録される。	○	第36条 テクニカルファウル	B	インプリ 36-10
64	A6がスコアラーに対して交代を申請した。その後A1のファウルによりボールがデッドになり、審判はA1とA6の交代を認めA6をコートに招き入れた。このファウルはA1の5個目のファウルであった。しかし、審判はA1にそのファウルが5個目のファウルであり失格だということを宣さなかった。A1はその後交代をしてゲームに出場し、A1がショットを成功させたときに、審判は不当な出場に気がついた。審判は5個目のファウルにより失格となるべきA1に対して、その事実を宣していなかったため、A1の得点を認め、A1を速やかにベンチに戻し、その不当な出場に対してチームAのコーチにテクニカルファウルを宣した。スコアシートには「B1」と記録される。	×	第36条 テクニカルファウル	B	インプリ 36-13、36-14
65	A1がドリブルしB1がディフェンスをしている。A1があたかもB1にファウルをされたかのような印象を与えるように頭部を動かした。審判はA1に「レイズザローアーム」のシグナルを2回示しフェイクに対して警告を与えた。その後一度もゲームが止まらずに、A1はさらにあたかもB1に押されたかのような印象を与えるようにフロアに倒れた。審判は1回目のフェイクに対して警告が与えられていなかったが、A1に対してテクニカルファウルを宣した。	○	第36条 テクニカルファウル	B	インプリ 36-17
66	B3は第1クォーターに判定に対する不満表現でテクニカルファウルを宣せられた。その後、第4クォーターに5個目のファウルを宣せられ失格になった。これはチームBの2個目のチームファウルであった。B3はチームベンチに向かう間に、審判に対して暴言を吐き、審判はテクニカルファウルを宣した。審判はB3が2個目のテクニカルファウルを宣せられたため、失格・退場とした。	×	第36条 テクニカルファウル	B	インプリ 36-25、36-26
67	第3クォーター終了間際に、コート上でプレーをしているA1と、チームBのベンチエリアにいる5個目のファウルを宣せられたB9との間で会話が始まった。それは次第にエスカレートして、第3クォーターが終了したインターバル中には、お互いが敬意を欠く言動、異論表現となったため、審判はインターバル中に両者に対してテクニカルファウルを宣した。審判はこのテクニカルファウルはインターバル中であることから第4クォーターに起きたものとして、A1とチームBのヘッドコーチに1個ずつのテクニカルファウルを記録、それぞれのチームに1個ずつチームファウルを加算し、テクニカルファウルの罰則に含まれるフリースローは相殺し、第4クォーターは通常通りオルタネイティングポゼッションによるスローインでゲームを再開させた。	×	第36条 テクニカルファウル	A	ルールブック 36-3-1補定：4-1-3、4-1-4、B-8-3-9
68	審判はプレーヤーの心情を理解することは必要であるが、故意であるかどうかは関係なく、プレーヤーの起こしたアクションのみを基準として、ゲームをとおして一貫性を持ってアンスポーツマンライクファウルの判断を行わなければならない。	○	第37条 アンスポーツマンライクファウル	C	ルールブック 37-1-2
69	第4クォーター残り1:02、A 83 - B 80、チームBは4個のチームファウルであるとき、A1がコート上のA3に対してパスをしようとしてスローインのボールがA1の手を離れた。そのときスローインのボールがA3に触れる前にB2がA3に対して触れ合いを起こし、B2にファウルが宣せられた。審判はB2のファウルは激しい触れ合いではなかったためB2にパーソナルファウルを宣し、A3にチームファウルの罰則としてのフリースローを与えた。	○	第37条 アンスポーツマンライクファウル	B	インプリ 37-5

【Q10-Q15】

第6章
ファウル

70	ボールに対するプレーではない、または正当なバスケットボールのプレーとは認められないプレーは、アンスポーツマンライクファウルである。	×	第37条 アンスポーツマンライクファウル	C	ルールブック 37-1-1
71	A1に対してB2が起こした触れ合いは、ボールに対するプレーではなく、かつ正当なバスケットボールのプレーとは認められないプレーであったが、A1はすでにショットの動作に入っており、一連の動作でショットを完了させてツーポイントショットを成功させた。審判はB2に対してアンスポーツマンライクファウルではなくパーソナルファウルを宣し、A1の2点を認め、さらに通常通りのリバウンダーありの状態に1本のフリースローを与え、ゲームを再開させた。	×	第37条 アンスポーツマンライクファウル	B	ルールブック 37-1-1、インプリ 37-8
72	速攻に出ているオフェンスのプレーヤーと、そのチームが攻めるバスケットの間にディフェンスのプレーヤーが全くいない状態で、その速攻を止めるためにディフェンスのプレーヤーが、そのオフェンスのプレーヤーの後ろあるいは横から起こす触れ合いであった場合はアンスポーツマンライクファウルである。このルールはオフェンスのプレーヤーがショットの動作に入っても適用される。	×	第37条 アンスポーツマンライクファウル	C	ルールブック 37-1-1
73	速攻に出ているA1が、チームAが攻めるバスケットの間にディフェンスのプレーヤーが全くいない状態で、速攻の終わりにA1がショットの動作に入るためにボールを持ったあと、B1がA1の後ろからボールをスティールしようとした結果、A1の手に対して触れ合いを起こした。A1はすでにショット動作に入っていたが、審判はB2の触れ合いが速攻に出ているオフェンスのプレーヤーとそのチームが攻めるバスケットの間にディフェンスのプレーヤーが全くいない状態であり、その速攻を止めるためにディフェンスのプレーヤーがそのオフェンスのプレーヤーの後ろあるいは横から起こした触れ合いだと判断し、アンスポーツマンライクファウルを宣した。	×	第37条 アンスポーツマンライクファウル	C	ルールブック 37-1-1
74	オフェンスが進行する中で、その進行を妨げることを目的としたディフェンスのプレーヤーによる必要のない触れ合いがあった場合はアンスポーツマンライクファウルである。このルールはオフェンスのプレーヤーがショットの動作に入ったあとも適用される。	×	第37条 アンスポーツマンライクファウル	C	ルールブック 37-1-1
75	プレーヤー、交代要員、ヘッドコーチ、アシスタントコーチ、5個のファウルを宣せられたチームメンバー、チーム関係者による、特に悪質でスポーツマンシップに反する行為に対するファウルはディスクォリファイングファウルである。	○	第38条 ディスクォリファイングファウル	C	ルールブック 38-1-1
76	A1が著しくスポーツマンらしくない行為により失格・退場になった。コートから離れたときに審判を侮辱する発言を行った。A1はすでに失格・退場になっているので、チームAのコーチにテクニカルファウルが宣せられる。	×	第38条 ディスクォリファイングファウル	C	インプリ 38-2
77	第3クォーターで、ベンチにいるA6がA7を殴ったので審判はA6を失格・退場とした。ディスクォリファイングファウルはチームAのヘッドコーチに宣せられスコアシートには「B2」と記録される。	○	第38条 ディスクォリファイングファウル	B	インプリ 38-8
78	ファイティングとは、プレーヤー、交代要員、ヘッドコーチ、アシスタントヘッドコーチ、5個のファウルを宣せられたチームメンバーやチーム関係者の間で発生する暴力行為のことをいい、この規定は、コート上やコートの周囲でファイティングが起こったときや起こりそうなきに、コート上のプレーヤー、チームベンチエリアから出た交代要員、ヘッドコーチ、アシスタントヘッドコーチ、5個のファウルを宣せられたチームメンバーやチーム関係者に適用される。ただし、ヘッドコーチとファーストアシスタントコーチだけは、審判に協力して争いを止めるためであれば、チームベンチエリアから出てよい。	×	第39条 ファイティング	C	ルールブック 38-3-1、39-1、39-2-2
79	交代要員、ヘッドコーチ、ファーストアシスタントコーチ、5個のファウルを宣せられたチームメンバーやチーム関係者は、審判に協力して争いを止めるためであれば、ファイティングが起こったときや起こりそうなきでもチームベンチエリアから出てよい。この場合は、失格・退場にはならない。しかし、チームベンチエリアから出てコートに入ったのに争いを止めようとしなかったときは、失格・退場になる。	×	第39条 ファイティング	C	ルールブック 39-2-2
80	ファイティングの規定によるディスクォリファイングファウルは、チームファウルに数えない。	○	第39条 ファイティング	C	ルールブック 39-3-3
81	ファイティングシチュエーションで、交代要員であるA6がコートに入ったため、失格・退場になった。ヘッドコーチAのテクニカルファウルとして「B2」と記録される。リバウンダーなしで1本のフリースローがチームBに与えられる。フロントコートのスローインラインからチームBのスローインでゲームが再開される。ショットクロックは14秒にリセットされる。	×	第39条 ファイティング	C	インプリ 39-4
82	すでに5個のファウルを宣せられたプレーヤーによるファウルは、プレーをする資格を失ったプレーヤーのファウルとしてヘッドコーチに宣せられ、スコアシートのヘッドコーチ欄には「C」と記録する。	×	第40条 プレーヤーの5個のファウル	C	ルールブック 40-2
83	各オーバータイムに起こった全てのチームファウルは第4クォーターに起こったものとみなされる。	○	第41条 チームファウル：罰則	C	ルールブック 41-1-3
84	ボールをコントロールしているチームのプレーヤーがパーソナルファウルをしてチームファウルのペナルティシチュエーションであるときには、相手チームに2本のフリースローが与えられる。	×	第41条 チームファウル：罰則	B	ルールブック 41-2-2
85	A1がジャンプショットを放ち、ボールが空中にある間にショットクロックのブザーが鳴った。そのブザーのあとA1はまだ空中にいる間に、B1がA1にアンスポーツマンライクファウルをし、ボールはリングに入った。A1の得点は認められ、アンスポーツマンライクファウルがB1に記録される。A1にリバウンダーなしの1本のフリースローが与えられ、ゲームはチームAのフロントコートのスローインラインからチームAのスローインで再開される。	○	第42条 特別な処置をする場合	B	インプリ 42-2
86	A1はショットの動作中にB1からパーソナルファウルをされた。同じショットの動作中にB2からアンスポーツマンライクファウルをされた。先にファウルを起こしたB1のパーソナルファウルの罰則のみが適用される。	×	第42条 特別な処置をする場合	B	インプリ 42-3

【Q16-Q19】
第7章
総則

87	両チームに記録された罰則が等しく、全て相殺されたときに、一方のチームにボールをコントロールしていたか、ボールを与えられることになっていたとしても、ジャンプボールシチュエーションでゲームを再開する。	×	第42条 特別な処置をする場合	B	ルールブック 42-2-8
88	B1がA1に対してアンスポーツマンライクファウルをした。そのファウルのあと、ヘッドコーチAとヘッドコーチBにそれぞれテクニカルファウルが宣せられた。ゲームはA1の1本のフリースローとチームAのスローインで再開される。	×	第42条 特別な処置をする場合	B	インプリ 42-4
89	B1がショットの動作中のA1に対してパーソナルファウルをし、ボールはリングに入った。そのファウルのあと、A2にテクニカルファウルが宣せられた。A1の得点は認められ、ゲームはチームBのフリースロー1本とA1のフリースロー1本で再開される。	×	第42条 特別な処置をする場合	C	インプリ 42-5
90	B1がA1に対してアンスポーツマンライクファウルをし、A1のショットは成功した。その後A1はテクニカルファウルを宣せられた。A1の得点は認められるがフリースローは相殺されるため、チームAのスローインでゲームが再開される。	×	第42条 特別な処置をする場合	B	インプリ 42-6
91	B1はドリブルをしているA1に対してパーソナルファウルをした。このファウルはチームBの3個目のチームファウルであった。そのあとA1がB1にボールをぶつけたため、A1にテクニカルファウルが宣せられた。リバウンダー無しでフリースローがチームBに与えられ、B1のファウルが起きたところに最も近いアウトオブバウンズからチームAのスローインでゲームが再開される。	○	第42条 特別な処置をする場合	C	インプリ 42-8
92	B1はドリブルをしているA1に対してパーソナルファウルをした。このファウルはチームBの5個目のチームファウルであった。そのあとA1が至近距離にいるB1の頭にボールをぶつけたため、A1にディスクォリファイングファウルが宣せられた。A1に2本のフリースローが与えられたあと、B1に2本のフリースローが与えられる。ゲームはチームBのフロントコートのスローインラインからチームBのスローインで再開される。	×	第42条 特別な処置をする場合	B	インプリ 42-9
93	A1は2本のフリースローを与えられ、両方のフリースローを決めた。2本目のフリースローが成功したあとボールがライブになる前に、A2とB2にそれぞれテクニカルファウルが宣せられた。それぞれのファウルはA2とB2に記録され、チームAとチームBがそれぞれ1本のフリースローを行ったあと、チームBのスローインから再開される。	×	第42条 特別な処置をする場合	B	インプリ 42-16
94	第1クォーターと第2クォーターの間のインターバル中に、A1とB1がそれぞれディスクォリファイングファウルをした。オルタネイティングポゼッションアローはチームAを示していた。ゲームはスコアラズテーブルの反対側のフリースローラインの延長線上からチームAのスローインで再開される。ボールがコート上のプレーヤーに触れる、あるいは触れられた時点でオルタネイティングポゼッションアローは逆向きになりチームBを示す。	×	第42条 特別な処置をする場合	B	インプリ 42-20
95	体の触れ合いを伴ったディスクォリファイングファウルが宣せられた場合は、ファウルをされたプレーヤーがフリースローシューターになる。	○	第43条 フリースロー	B	ルールブック 43-2-1
96	ファウルをされたプレーヤーが、怪我、5個のファウルあるいは失格・退場によりゲームを離れなければならない場合は、そのプレーヤーと交代したプレーヤーがフリースローシューターになる。交代できるプレーヤーがない場合は、自チームのヘッドコーチが指定したプレーヤーがフリースローシューターとなる。	○	第43条 フリースロー	B	ルールブック 43-2-1
97	最後のフリースローが成功したが、フリースローのショットが放たれる前に両チームのプレーヤーが制限区域に入るバイオレーションをした。フリースローの得点を認めた上で、バイオレーションはなかったものとしてゲームを再開する。	○	第43条 フリースロー	C	ルールブック 43-3-2
98	最後のフリースローのときにフリースローシューターにバイオレーションがあった場合、フリースローの得点は認められない。フリースローに続いてポゼッションが与えられることになっていた場合を除き、ゲームはフリースローラインの延長線上から相手チームのスローインで再開される。	○	第43条 フリースロー	C	ルールブック 43-3-3
99	訂正できる誤りに気がつき、審判がゲームを止める前に起きたファウルは、本来起きるべきものではなかったため、無効となり取り消される。	×	第44条 訂正できる誤り	C	ルールブック 44-2-3
100	B1がA1にパーソナルファウルをした。このファウルはチームBの4個目のチームファウルであった。審判は誤ってA1に2本のフリースローを与えた。最後のフリースローが成功したあとでゲームクロックが動き出し、B2がボールを受け取りドリブルをして得点を決めた。A2がエンドラインでボールを掴んだあと、審判が誤りに気がつき、ゲームを止めた。誤って与えられたA1のフリースローは取り消され、ゲームはエンドラインからチームAのスローインで再開される。	×	第44条 訂正できる誤り	B	インプリ 44-2
101	B1がショットの動作中のA1にパーソナルファウルをし、2本のフリースローが与えられた。1本目のフリースローが成功したあとB2は誤ってボールを取り、エンドラインからスローインをした。ショットクロックが残り18秒を示し、B3がフロントコートでドリブルをしているとき、審判はA1の2本目のフリースローが与えられていないことに気がついた。ゲームは速やかに止められ、A1に2本目のフリースローが与えられる。ゲームは誤りの訂正のために中断されたところに最も近いアウトオブバウンズから、チームBのスローインで再開され、ショットクロックは残り24秒にリセットされる。	×	第44条 訂正できる誤り	B	インプリ 44-3
102	B1がA1にパーソナルファウルをし、そのファウルはチームBの6個目のチームファウルであった。A1に2本のフリースローが与えられた。しかし、A1ではなくA2がフリースローを行おうとし、審判はA2が最初のフリースローを行う前にその誤りに気がついた。フリースローは取り消され、ゲームはフリースローラインの延長線上からチームBのスローインで再開される。	×	第44条 訂正できる誤り	B	インプリ 44-5
103	B1がA1にパーソナルファウルをし、そのファウルはチームBの5個目のチームファウルであった。A1に2本のフリースローを与えられるはずが、誤ってスローインを与えられた。その後A2がコート上でドリブルをしているときにB2がボールをはじきアウトオブバウンズになった。ヘッドコーチAがタイムアウトを請求し、タイムアウト中に、A1に2本のフリースローを与えなければならなかったことに審判が気がついた。審判はタイムアウトが終わったあとでA1に2本のフリースローを与え、通常の最後のフリースローのあとと同様にゲームを再開する。	○	第44条 訂正できる誤り	A	インプリ 44-9

	104	B1がA1にパーソナルファウルをし、そのファウルはチームBの5個目のチームファウルであった。A1に2本のフリースローを与えられるはずが、誤ってスローインを与えられた。スローインのあと、A2はショットの動作中にB2からパーソナルファウルをされ、2本のフリースローを与えられた。ヘッドコーチAがタイムアウトを請求した。タイムアウト中に、A1に2本のフリースローを与えなければならなかったことに審判が気がついた。審判はチームAの任意のプレイヤーに2本のフリースローを与えたのち、A2に2本のフリースローを与え、通常の最後のフリースローのあとと同様にゲームを再開した。	×	第44条 訂正できる誤り	A	インプリ 44-10
	105	B1がA1にパーソナルファウルをし、そのファウルがチームBの5個目のチームファウルであった。A1に2本のフリースローを与えられるはずが、誤ってスローインを与えられた。スローインのあと、A2がショットを成功させた。そのボールがライブになる前に審判は与えるべきフリースローを与えていないことに気がついた。A1にリバウンドなしの2本のフリースローが与えられ、ゲームはエンドラインからチームBのスローインで再開する。	×	第44条 訂正できる誤り	A	インプリ 44-11
【Q20-21】 第8章 審判、 テーブル オフィシャルズ、 コミッショナー ：任務と権限	106	審判、テーブルオフィシャルズ、コミッショナーは、競技規則に則りゲームを行い、規則の変更を承認する権限は持たない。	○	第45条 審判、テーブルオフィシャルズ、コミッショナー	C	ルールブック 45-5
	107	ゲーム中にディスクォリファイングファウルが起きたときには、クルーチーフはゲーム終了後にスコアシート裏面に記載をし、大会主催者に報告しなくてはならない。	○	第46条 クルーチーフ：任務と権限	B	ルールブック 46-10
	108	ゲーム終了を知らせるゲームクロックのブザーが鳴ったとき、A1がフィールドゴールを放ち成功した。コートにはゲーム開始前に認められたインスタントリプレーシステム（IRS）に関する機器は存在しなかったが、チームBのマネージャーが自チームのビデオカメラで撮影していた動画を提供し、確認した結果、明らかにA1のショットが手から離れるよりゲームクロックのブザーの方が早かったため、クルーチーフはA1の得点を認めなかった。	×	第46条 クルーチーフ：任務と権限	C	インプリ 46-25
	109	審判の1人が怪我またはその他の理由で審判を続けられなくなり、その後5分を経過してもその審判が任務を遂行できない場合はゲームを再開する。怪我をした審判の代わりとなる審判がいない場合は、残りの審判だけでゲーム終了まで任務を遂行する。	○	第47条 審判：任務と権限	C	ルールブック 47-5
	110	交代のブザーを鳴らして審判に伝えるのは、タイマーの任務である。	×	第48条 スコアラー、アシスタントスコアラール：任務	C	ルールブック 48-2
	111	スコアシートの記録の誤りがゲーム中に見つかった場合は、スコアラールは確認ができた段階で速やかにブザーを鳴らして審判に知らせる。	×	第48条 スコアラー、アシスタントスコアラール：任務	D	ルールブック 48-4
	112	チームAのヘッドコーチ自身にテクニカルファウルが宣せられ、チームBに1本のフリースローが与えられた。スコアシートのヘッドコーチ欄には「T」と記入する。	×	第48条 スコアラー、アシスタントスコアラール：任務	C	ルールブック 補足B8-8
	113	第4クォーターでA1がフィールドゴールのショットが成功し、ボールがバスケットを完全に通り抜けたとき、ゲームクロックは残り2:03を表示していた。スローインのためにB1がボールに触れるまでの間にゲームクロックの表示が2:00となったので、タイマーはゲームクロックを止めた。	×	第49条 タイマー：任務	A	ルールブック 49-2
	114	チームAがフロントコートでスローインのボールを投げ入れたときに、チームBのプレイヤーがキックボールのバイオレーションをした。ゲームクロックは1秒進んでしまったので、審判は時間を正しく訂正してゲームを再開した。	○	第49条 タイマー：任務	B	ルールブック 49-2
	115	タイマーは第1クォーターと第3クォーターが始まる3分前と1分30秒前にブザーを鳴らす。審判に知らせる。国内大会ではブザーを鳴らすことを推奨されている。	○	第49条 タイマー：任務	C	ルールブック 49-4
	116	チームAがフロントコートでボールをコントロールしているとき、A1の怪我で審判がゲームを止めた。このときショットクロックは残り10秒を表示していた。A1はA6と交代し、引き続きチームAのフロントコートからゲームが再開されることになったので、ショットクロックオペレーターはショットクロックの表示を14秒にリセットした。	×	第50条 ショットクロックオペレーター：任務	C	ルールブック 50-2
	117	ボールが正当にバスケットに入ったときにはショットクロックを止めて24秒にリセットし、秒数は表示しない。	○	第50条 ショットクロックオペレーター：任務	B	ルールブック 50-3
	118	チームAのスローインでショットクロックは残り1秒を表示していた。スローインをするA1の手から離れたボールがチームBのプレイヤーの手に当たった。ゲームクロックは動き始めたが、ショットクロックはその後A2がボールを掴んでから動きだした。	×	第50条 ショットクロックオペレーター：任務	C	ルールブック 50-1
	119	A1がショットしたボールがリングに触れたあと、どちらのチームもリバウンドのボールをコントロールしないうちにチームAのフロントコートでB2がA2にファウルをした。チームBのチームファウルは3個目であった。チームAにスローインのボールが与えられ、ショットクロックは14秒にリセットされる。	○	第50条 ショットクロックオペレーター：任務	B	ルールブック 50-4
	120	ショットクロックのブザーが鳴ったときに、チームがボールをコントロールしているときを除いて、ボールはデッドになる。	×	第50条 ショットクロックオペレーター：任務	C	ルールブック 10-3、50-5
	121	第4クォーター残り2:00でチームAにスローインが与えられたので、審判はイリーガルバウンダリーラインクロッシングシグナルを使ってから、A1にスローインのボールを与えた。	○	第17条スローイン	D	ルールブック 17-3-3
	122	第4クォーター残り1:47で、チームAにスローインが与えられ、審判はイリーガルバウンダリーラインクロッシングシグナルを使ってからA1にスローインのボールを与えた。スローインのときにB1が境界線を越えて手を出し、スローインを妨げようとしたので、審判はB1のバイオレーションを宣し、A1にスローインのやり直しをさせた。	×	第17条スローイン	D	ルールブック 17-3-3

123	第4クォーター残り0:53で、A1のドリブルのボールをB1がチームAのバックコートのアウトオブバウンズに叩き出した。このときショットクロックは残り17秒であった。ここでチームAにタイムアウトが認められた。タイムアウト後にヘッドコーチAがフロントコートのスローインラインからのスローインを選択した場合、ショットクロックは継続になる。	×	第17条 スローイン	C	インプリ17-12
124	第4クォーター残り1:24で、チームAのフロントコートにいるA1が同じくフロントコートにいるA2に向かってパスしたボールをB1が空中ではじき出し、A3がチームAのバックコートでそのボールをキャッチした。その直後にA3の手の中にあるボールをB2がチームAのバックコートのアウトオブバウンズに叩き出した。このときショットクロックは残り6秒であった。ここでチームAにタイムアウトが認められた。タイムアウト後にヘッドコーチAがフロントコートのスローインラインからのスローインを選択した場合、ショットクロックは14秒になる。	×	第17条 スローイン	C	インプリ 17-15
125	第4クォーター残り1:18で、バックコートからチームAにスローインが与えられた。このときチームAにタイムアウトが認められた。タイムアウトのあと、ヘッドコーチAはフロントコートからのスローインを選択した。スローインが行われる前に、ヘッドコーチBがタイムアウトを請求した。ヘッドコーチAは戦術を変更しバックコートからのスローインを選択した。	×	第17条 スローイン	B	インプリ 17-19
126	第1クォーターと第2クォーターの間のプレーのインターバル中に、A1はB1にアンスポーツマンライクファウルをした。第2クォーター開始の前に、リバウンダーなしでフリースロー2本がB1に与えられる。チームBのフロントコートのスローインラインからのスローインでゲームが再開される。チームBのショットクロックは14秒になり、ポゼッションアローは逆向きにはならない。	○	第17条 スローイン	A	インプリ 17-26
127	第2クォーターで、A2がフロントコートでドリブルをしているときA1にテクニカルファウルが宣せられた。リバウンダーなしでフリースロー1本がチームBに与えられる。ゲームが止められた場所に最も近い位置からのスローインとしてボールはチームAに与えられ、ショットクロックは継続される。	○	第17条 スローイン	C	インプリ 17-40
128	第2クォーターで、A2がフロントコートでドリブルをしているときB1にテクニカルファウルが宣せられた。このときショットクロックは13秒を示していた。審判はリバウンダーなしでフリースロー1本をチームAに与えたあと、ゲームが止められた場所に最も近い位置からのスローインとしてチームAにスローインのボールを与えた。ショットクロックは14秒にリセットされる。	○	第17条 スローイン 第29条 24秒ルール	B	インプリ 17-41、29/50-12
129	第4クォーター残り1:30で、A1がチームAのバックコートでドリブルをしているとき、A2にテクニカルファウルが宣せられた。このときショットクロックは残り20秒であった。タイムアウトのあとリバウンダーなしでフリースロー1本がチームBに与えられた。ここでチームAにタイムアウトが認められた。タイムアウト後にヘッドコーチAがフロントコートのスローインラインからのスローインを選択した場合、ショットクロックは継続になる。	×	第17条 スローイン	B	インプリ 17-44
130	第4クォーター残り1:59で、A1のドリブルのボールをB1がチームAのバックコートのアウトオブバウンズに叩き出した。このときショットクロックは残り18秒であった。ここでチームAにタイムアウトが認められた。タイムアウト後にヘッドコーチAがフロントコートのスローインラインからのスローインを選択した。その直後にA2にテクニカルファウルが宣せられた。リバウンダーなしでフリースロー1本がチームBに与えられた。ゲームはチームAのフロントコートのスローインラインからのスローインで再開され、ショットクロックは18秒となる。	×	第17条 スローイン	A	インプリ 17-46
131	ドリブルをしていたA1が、ボールを持ったあとバックボードに向かってボールを当て、他のプレーヤーがボールに触れる前に空中でボールをキャッチしてそのままショットをしたので、ダブルドリブルを宣した。	×	第24条 ドリブル	C	ルールブック 24-1-4
132	A1がチームAのフロントコートでドリブルをしているとき、B2がA2に対してアンスポーツマンライクファウルをした。このときショットクロックは残り16秒であった。審判はA2に2本のフリースローを与え、オフィシャルズテーブルの反対側のセンターラインの延長上からチームAのスローインでゲームを再開した。ショットクロックは16秒になる。	×	第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務	D	インプリ 29/50-20
133	ショットクロック残り17秒でA1がショットを放った。ボールが空中にあるときに、B2がA2にファウルをした。これはチームBのそのクォーター2個目のチームファウルだった。そしてボールはバスケットに入った。審判はA1の得点を認め、ファウルがあった場所に最も近い位置からチームAのスローインでゲームを再開した。ショットクロックは24秒になる。	×	第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務	C	インプリ 29/50-28
134	A1がショットを放ち、ボールがリングとバックボードの間に挟まった。ポゼッションアローはチームAを示している。ショットクロックは残り8秒を表示している。バックボード横のエンドラインからのスローインがチームAに与えられ、ショットクロックは継続になる。	×	第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務	D	インプリ 29/50-43
135	A1のフィールドゴールのショットがリングに当たって弾んだ。B1が空中にジャンプしボールをキャッチしてコート上に下りた。A2がB1の手からボールをはじき出し、A3がボールをキャッチした。チームAのショットクロックは24秒になる。	○	第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務	C	インプリ 29/50-45
136	バックコートにいるA1が同じくバックコートにいるA2にパスをした。A2はボールをキャッチできず、チームAのバックコートでボールがアウトオブバウンズに出た。ボールがアウトオブバウンズに出た場所に最も近い位置からチームBにスローインが与えられ、ショットクロックは24秒になる。	×	第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務	C	インプリ 29/50-51
137	第4クォーター残り58秒で、チームAのバックコートでB1がA1にファウルをした。これはチームBの3個目のチームファウルであり、ショットクロックは19秒であった。チームAにタイムアウトが認められ、ヘッドコーチAはフロントコートのスローインラインからのスローインを選択した。チームAのショットクロックは14秒になる。	○	第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務	C	インプリ 29/50-57
138	チームBがバックコートからスローインしたボールを運んでいるときに、B1がバックコートでチャージングを宣せられた。ゲームはチームAがフロントコートのアウトオブバウンズからスローインをして再開され、ショットクロックは14秒にリセットされる。	○	第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務	D	ルールブック 29-2-2
139	チームAのバックコートにいるA1がフロントコートにいるA2に向かってパスしたボールを、チームAのバックコートにいるB1がキャッチした。その直後にA2がB1に対してパーソナルファウルをした。これはチームAのこのクォーター3個目のチームファウルであった。ゲームはチームBのフロントコートのアウトオブバウンズからのスローインで再開され、ショットクロックは14秒にリセットされる。	×	第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務	B	インプリ 29/50-12
140	チームAのバックコートにいるA1がフロントコートにいるA2に向かってパスしたボールを、チームAのバックコートにいるB1がキャッチした。その直後にA2がB1に対してパーソナルファウルをした。これはチームAのこのクォーター3個目のチームファウルであった。ゲームはチームBのフロントコートのアウトオブバウンズからのスローインで再開され、ショットクロックは24秒にリセットされる。	×	第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務	A	インプリ 29/50-12

【Q22-Q25】
2019ルール

141	チームAのバックコートにいるA1がフロントコートにいるA2に向かってパスしたボールを、B1がスティールしようと試みたが、ボールをキャッチする前にチームAのバックコートでA2がB1に対してパーソナルファウルをした。これはチームAのこのクォーター3個目のチームファウルであった。ゲームはチームBのフロントコートのアウトオブバウンズからのスローインで再開され、ショットクロックは14秒にリセットされる。	○	第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務	A	ルールブック 29-2-2
142	チームAは2個、チームBは3個のチームファウルであるとき、ドリブルをしているA1とB1がほとんど同時に互いにファウルをした。この場合は両チームのファウルの罰則が等しいため、ダブルファウルになる。	○	第35条 ダブルファウル	C	インプリ 35-2
143	チームAは2個、チームBは5個のチームファウルであるとき、ドリブルをしているA1とB1がほとんど同時に互いにファウルをした。この場合はダブルファウルにならない。審判はどちらのファウルが先に起こったかを決定し、A1のファウルが先に起こった場合チームBのスローインは取り消され、フリースロー2本がA1に与えられる。	○	第35条 ダブルファウル	B	インプリ 35-4
144	第3クォーターですでにアンスポーツマンライクファウルを宣せられたB1が、第4クォーターでA1にファウルをした。審判はそのファウルをアンスポーツマンライクファウルにアップグレードすべきかを確認する必要があると判断した。クレーチーフがIRSレビューを行っている間にB1がテクニカルファウルを宣せられた。IRSレビューの結果、B1によるA1へのファウルはアンスポーツマンライクファウルであった。B1は2個目のアンスポーツマンライクファウルによって失格・退場になるが、テクニカルファウルはなかったものとみなす。	○	第36条 テクニカルファウル 第37条 アンスポーツマンライクファウル	A	インプリ 36-39
145	A1はツーポイントショットを打とうとしたときB1にファウルをされた。A1が最初のフリースローを打ったあとA2がテクニカルファウルを宣せられた。A2のテクニカルファウルによるフリースローがチームBに与えられたあと、2本目のフリースローがA1に与えられる。	○	第36条 テクニカルファウル	C	インプリ 36-45
146	A1がフィールドゴールのショットを打った。ボールが空中にあるときB1にテクニカルファウルが宣せられた。A1のショットが成功しなかった場合、テクニカルファウルのためにチームAにフリースローが与えられたあと、オルタネイティングポゼッションのスローインでゲームが再開される。	○	第36条 テクニカルファウル	B	インプリ 36-47
147	ショットの動作中にA1がボールを持ったとき、A2にテクニカルファウルが宣せられた。A1のショットが成功した場合は得点を認め、A2のテクニカルファウルのためのフリースローをチームBに与えたあと、エンドラインのアウトオブバウンズからチームBのスローインでゲームが再開される。	×	第36条 テクニカルファウル	B	インプリ 36-49
148	ショットの動作中のA1にB1が触れ合いを起こしファウルが宣せられた。A1のショットは成功したが、A1がB1に対して威嚇行為を行ったためテクニカルファウルが宣せられた。A1の得点は認められるが、両方の罰則が等しいため相殺されて、チームBのスローインでゲームが再開される。	○	第36条 テクニカルファウル 第42条 特別な処置をする場合	A	ルールブック 42-2-3
149	A1が5個目のパーソナルファウルを宣せられた。このファウルはチームAの2個目のチームファウルであった。いら立ったA1は審判を侮辱しディスクォリファイングファウルを宣せられた。A1は失格・退場になり、ディスクォリファイングファウルはヘッドコーチAに記録される。	○	第38条 ディスクォリファイングファウル	B	インプリ 38-6
150	コート上にいるA1とB1で暴力行為が始まり、A6とB6がコートに入ってきたが暴力行為には加わらなかった。A7はコートに入ってきてB1の顔面を殴った。A1とB1、A6とB6、A7はそれぞれ失格・退場になり、A1、B1のディスクォリファイングファウルの罰則とヘッドコーチAとヘッドコーチBのテクニカルファウルの罰則が相殺され、暴力行為が始まる前の状況からゲームを再開する。	×	第38条 ディスクォリファイングファウル 第39条 ファइटिंग	A	ルールブック 38-3-4、 インプリ39-5